



巻頭言

サポティブハウスの役割とケースワーカー

NPO法人サポティブハウス連絡協議会

代表理事 山田尚実



NPO法人サポティブハウス連絡協議会に加盟のサポティブハウスは現在6軒。それぞれのサポハウスが、それぞれの思いをもって、入居者の皆様をサポートしています。

サポハウスは施設とは異なります。まずは自由です。食べる物も飲む物も好きに選べます。当然外出の自由もあります。病院も介護も選べます。お酒だってタバコだってOK。もちろん、他の人の迷惑になるようなのは駄目です。

だったら普通のアパートとどう違うの？

そうです。サポハウスにはスタッフがいます。生活の困りごとを一緒になって考えてくれるスタッフがいます。いくつかアイデアを出したり、専門家につないだり一緒に動いたり。出かけるときはいつてらっしゃい、外から帰ったらお帰りなさい、と声をかけたり。薬の飲み忘れがないように預かったり、お金の管理が苦手な方には、契約の下、金銭管理をしたり。それらは全部無償。サポハウスとスタッフの心意気です。使いつたり飲みすぎたり、たまにはギャンブルですってんてんになってしまう人もいたりします。そんな時、家族のように親身になって次そうならないように一緒に考えるのがサポハウスのスタッフです。

サポハウスが釜ヶ崎に誕生して20年が経ちました。その間、行政のケースワーカーをはじめ、病院、介護事業所、訪問看護、地域の様々な支援団体と手を携え、入居者のサポートにあたってきました。そもそもサポハウスは行政を初め、この地域の支援者、学者などが議論を重ね、信頼できる居住の受け皿としてこの地に設立されたものです。

この20年、行政のケースワーカーの方々にはいろいろお世話になってきました。入院中の方の退院後どうやって生活するかの話し合いに、病院まで同行していただくことはよくあることでした。また認知症の方、依存症の方、精神の障害をお持ちの方などがサポハウスのサポートの中でなんとか安心安定の生活が送れている中、今の生活が窮屈だ、飲みたい、ギャンブルしたい、の一心で新しい住居を探して役所へ引越しの相談に行かれた時などは、ケースワーカーから「この方大丈夫でしょうか？」とサポハウスに一言お声掛けいただくことが多々ありました。

出ていきたいとなった時、もちろん誰にでも好きなところで住む権利はあります。がしかし、新しいところがたとえ広くて新しくてきれいでも、何のサポートもなく今より質の高い生活が送れるのでしょうか？少なくとも今後も同じ生活の質が担保されているのでしょうか？それを考えてくださるのが行政のケースワーカー

ではないでしょうか。

ところが最近、引越したいとケースワーカーに相談に行かれた時、ケースワーカーはすぐ新しいところの書類を持ってくるようにおっしゃいます。その書類に問題がなければ引越しOKを出されます。でもその人が今サポハウスでどのように生活をしているか、生活の質を保つためにどれだけのことがなされているのか。サポハウスのスタッフやその人に関わる支援者のネットワークの中で、話し合いがなされ、皆がどれだけの努力をしてきているか、などを知らず知らないケースワーカーが増えているのではないのでしょうか。

その人の不満はお金を自由に使えないことに対しての不満だったりするわけで、お金を持ったらすぐお酒やギャンブルで生活が成り立たなくなり生活保護が廃止になる憂き目にあい、体調も悪くなるなどを繰り返してきた、今度こそそのような生活から抜け出そうと今まで頑張ってきた、そのような実情を知ろうともしないまま、書類一枚で引越しを許可し尚且つ個人情報になるからと連絡もしてくれないこともあるような行政、福祉事務所の現在の在り方はいつからのことなのでしょう。今の分館のケースワーカーの中にはサポハウスの存在を知らない人がいるって本当ですか？新しいケースワーカーが分館に配属された時、地域の社会資源としてサポハウスの存在を説明していただけているのでしょうか。

サポハウスは立ち上げから行政と協力関係を築いてきたからこそ、まちづくり会議にも代表、副代表が呼ばれ参加し、多くの意見を述べてきました。行政からも信頼を得てやってきているとの自負もあります。最近の行政の個人情報を盾に取ったサポ協に対する対応は今までの信頼関係を損なうとしか言いようがありません。

ケースワーカーもサポハウスのスタッフも入居者の皆様が、安心安定した生活を送ってくださることが一番の望みだと思います。そのためにも、協力して本当に必要な支援をしていくことが大事だと思います。これからも行政の協力なくしてこの地域の福祉は成り立ちません。サポハウスも頑張っていけます。行政もどうか一人一人の顔を思い浮かべての支援をよろしくお願い申し上げます。

付記 上記の件で、6/20に西成区長、と7/14には区役所会議室において生活保護担当課長に申し入れを行いました。今後も地道に、入居者の権利と命を守るために、頑張っていけます。

春のスタッフ研修を行いました。

2022年3月4日（金）午後2時から西成市民館3階講堂で、西成市民館主催の「防火・防災講座」に参加しました。コスモ、おはな、泉荘、ワカマツ、レインボーハウス、ニュー銀座の会員の館から、スタッフと利用者8名の参加がありました。サポ協と友好団体の釜ヶ崎地域まちづくり合同会社からもご参加頂きました。お忙しい中、ありがとうございました。

研修内容は、近々に高い確率で発生すると言われている東南海・南海地震に対する取り組みがテーマでした。災害は防げませんが、災害時にどうして命を守るか、あるいは被害を最小限に抑さえる「減災」について学びました。サポ協の会員の館には、各々80名から120名が生活しています。利用者の安全確保だけでなく、スタッフの対処の仕方が、災害時には大事になります。今回の研修の基に、各館でも独自の避難計画や災害時の心構えを利用者共々考えていってほしいと思っています。



研修会の様子

サポ協俳壇

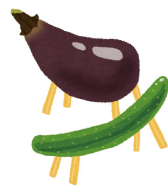
夏雲や 母の年忌に 頭垂れ



雲わくも 面影薄く 年々に

盆供養 母の面影 遠くなり

H. K氏の作品より

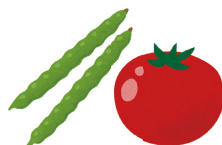


サポ協健康農園のコーナー

畑の野菜、元気に育ってます！

天下茶屋健康広場の農園をお借りしているひと花センターです。

登録者数名で毎日畑のお世話をしています。現在、畑では夏野菜がすくすくと成長していて、トマト類は小さな実がつき始め、なす、インゲンはかわいい花を咲かせています。先日は立派に育った大根を収穫することができました。収穫した野菜はお世話になっている方々にお裾分けしていて、地域の方々と登録者の皆さんとの交流にも一役買っています。今年は区民まつりなどでもお披露目できたらいいなと思っています。写真は、5月の中旬に撮影しました。（樋口 記）



春大根の収穫風景



総会のお知らせ

第19期のNP0サポティブハウス連絡協議会の総会を下記の要領で、開催します。

日時 2022年8月24日（水） 午後1時30分より

場所 西成市民館3階会議室

あとがき

コロナ禍は、第7波のピークと言われています。いつになったら終息して、以前の生活に戻れるのでしょうか？ 気を引き締めて、予防に努めましょう！ 手洗い、うがい、マスクの着用も人混み以外は、はずしてもよくなりましたが、ご用心ご用心！！ コロナは、もうコロナ（来るな）！（河崎 記）